

英語塾DJ 英文法ドリル・構文編

＜クジラ構文 no＋比較級 の構文＞

¶ A whale is no more a fish than a horse is.

：クジラは馬と同様、魚ではない。



これがいわゆる悪名高いクジラ構文ですが、
次ことをイメージしておくとう理解しやすいです。

1. than の後ろに“前提”がある。
2. 比較級は、真に受けちゃダメ。尺度、である。
3. 比較級の直前の no は、差がないこと(同じ程度)を表す。

以下、順を追って説明します。

He is tall. ⇒ 彼の身長は高い。

He is taller than she. ⇒ 彼の身長は高い、とはいえない。

“tall”という尺度において、彼が彼女に勝っている、という意味。

このように、比較級になっている形容詞“taller”は、そのまま判断できないわけです。

He is taller than she. という文で、彼の身長が1m15cmであることだって、十分にあるわけです。

taller は尺度に過ぎず、これを tall と考えちゃダメというのが比較級の難しいところです。
その判断ができるとしたら、それは結局のところ、比較相手次第です。

＜例＞ He was taller than Rui Hachimura. ⇐ 高い！

さて、比較級の前にはさまざまなMをおきますが、それらは差を表します。

He is much taller than she. ⇒ でも、彼の背は高いかどうかわからない。

He is 3 centimeters taller than she. ⇒ でも、彼の背は高いかどうかわからない。

He is no taller than Draemon. ⇒ **彼の背は、低い！！**

(彼はドラえものの身長を全く超えない、同じ。)

上記例文で気をつけなくてはならないのが、上2つは、彼の身長が高いのかわからない、ということです。つまり、相対概念で、彼は「背の高さ」という尺度において勝っている、という意味です。比較相手次第では、彼の背は高いと言えます。

しかし、“no taller”になった場合は、これは「彼の身長は高くなくて、低い」と判断します。

なぜなら、than 以下には前提があって、比較相手は背の低い人(ネコ型ロボット)だからです。